

回覧



硝子と陶の詩人



扇田克也・宮澤章

Katsuya Ogita

Akira Miyazawa

2025.7.27[日] → 9.21[日] 開館時間 9:30 → 17:00 ※入館は16:30まで

■休館日/月曜日(祝日の場合は翌日) ■入館料/大人600円(550円)、小中学生300円(250円) ※(*)内は20名以上の団体、65歳以上は300円(要証明)

■主催/益子町文化のまちづくり実行委員会、益子陶芸美術館 ■後援/下野新聞社、とちぎテレビ、栃木放送、エフエム栃木、ももか新聞plus

※今後の状況により、展覧会予定に変更が生じる場合がございます。最新情報は、当館ホームページ・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

益子陶芸美術館
Mashiko Museum of Ceramic Art

栃木県芳賀郡益子町益子 3021
TEL: 0285-72-7555
www.mashiko-museum.jp

扇田克也《海に降る雨》2011年 富山市ガラス美術館 宮澤章《Imayou》2024年



扇田克也 *Katsuya Ohgita*

- 1 《雨を渡る》2016年 樂翠亭美術館
- 2 《LIGHT-SHAPE》2007年 富山市ガラス美術館
- 3 《MONOLOGUE》2002年 石川県能登島ガラス美術館
- 4 《HOUSE》2013年 富山市ガラス美術館



硝子と陶の詩人

扇田克也 宮澤 章

扇田克也(1957-)は、石川県を拠点として「鑄玻璃」と名付けた鑄造硝子技法で制作する造形家です。金沢美術工芸大学工芸デザイン専攻で鑄金を学び、東京ガラス工芸研究所で学びました。1991年第4回世界現代ガラス展では、日本人として初めてグランプリを受賞しています。コールドキャストと呼ばれる鑄造技法を用いて、家や自然の風景などの日常的な景色を象り、「内側に溜る光」を意識した、硝子という透ける素材がなし得る造形を制作しています。

宮澤章(1950-)は、益子を拠点に活動する陶芸家です。秋田大学教育学部美術科にて油彩画を学び、陶芸家の道を目指し、旭製陶(愛知県尾張旭市)に入所します。その後1976年益子で独立しました。塔や俑などを手びねりで成形し、手の跡を残しながら器面に表情をつけ、化粧土を掛けたのちにサンドペーパーで表面を磨く「積化象嵌」と名付けた方法で、土本来が持つ柔らかな肌を追求しています。二人の作品は、それぞれの素材が本来持ち得る魅力を引き出して、まるで物語の中に引き込まれるような温かく詩情豊かな世界観を築いています。二人の「詩人」による作品世界をぜひお楽しみください。



宮澤 章 *Akira Miyazawa*

- 1 《紅彩陶塔香炉》
- 2 《偶花生》2015年 益子陶芸美術館
- 3 《陶塔花生》2009年
- 4 《I mayou》2025年

イベント 作家によるギャラリートーク
扇田克也 7月27日(日)
宮澤 章 8月31日(日) 両日とも14:00から開催 ※要企画展チケット

同時開催 スポットライト
「ロンドン ヴァンガードコートの陶芸家たち」
9月21日(日)まで ■会場/2階展示室 ※要企画展チケット

次回展のご案内

「松崎健
一窯艶 健の陶表現」
2025 2026
10月5日(日)~1月12日(月・祝)

※今後の状況により展覧会予定に変更が生じる場合がございます。
最新情報は当館ウェブサイト・Facebook・X・Instagram等でご確認ください。

Access

益子陶芸美術館

Mashiko Museum of Ceramic Art

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021

TEL.0285-72-7555

www.mashiko-museum.jp

アクセス:【バス】東武宇都宮駅(西口1番バス乗り場)、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東バス益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」並間・益子行、益子陶芸美術館入口下車徒歩約2分。【鉄道】JR小山駅から水戸線「下館」駅下車、下館駅から真岡鐵道「益子」駅下車徒歩約25分。【自動車】常磐自動車道友部JCT経由、北関東自動車道「桜川筑西」ICから約20分。東北自動車道栃木都賀JCT経由、北関東自動車道「真岡」ICから約25分。 ※運行状況は各交通機関にご確認ください。

